

東京芸術座

夏の庭

—The Friends—

だ
っ
て
オ
レ
た
ち

あ
の
せ
に
知
り
合
い
が
い
る
ん
だ

そ
れ
っ
て
す
ご
い
心
強
く
な
い
か
?



原作／湯本香樹実

『夏の庭-The Friends-』（新潮文庫刊）

脚本・演出／印南貞人

■日時／2013年**11月8日**[金] 19時00分開演（開場は30分前）

■料金／一般…**1,500円**（当日同料金）・大学生以下…**800円**（当日同料金）・ペア…**2,500円**（前売のみ）

※全席自由 ※電話予約可 ※WEB予約可（三股町立文化会館WEBサイト）

※未就学児入場不可 ※託児サービスあり（無料・申込先＝三股町立文化会館）

※前売にて完売の場合「当日券」の販売はしないことがあります。

■出演／東京芸術座 ■会場／三股町立文化会館（〒889-1901 宮崎県北諸県郡三股町樺山3404-2）

■主催／三股町・三股町教育委員会 ■共催／みやこのじょう子ども劇場

■お問い合わせ・チケット取扱／三股町立文化会館 TEL0986-51-3462 <http://www.town.mimata.lg.jp/bunka/>

～あらすじ～

はじまりは、山下が学校を三日間休み、
 田舎のおばあさんの葬式に行った話を聞いてからだった。
 『人間は死んだらどうなるんだろう』。
 その疑問が増しに募る一方の三人組。
 河辺が近所に住むひとり暮らしのおじいさんが、
 「もうすぐ死ぬんじゃないか」ってことを聞きつけてきた。
 それを機におじいさんの“死ぬ瞬間”の観察が始まる。
 その家はまるで手入れされていなかった。
 「張り込みは忍耐と努力!」。
 ある日、見張っているところをおじいさんにとがめられる。
 「おまえら、よくうろろしてるな。何しようってんだ?」
 「別に…ただ…」
 「ただ?」
 ……なんで「ただ」なんて言っちゃったんだろう。
 ぼくたち、ただあつたの死ぬのを見張っているだけなんです……なんで、
 まさが言えへないし…。

—少年たちの…夏は始まる—



夏の庭

—The Friends—

■原作／湯本香樹実「夏の庭 -The Friends-」(新潮文庫刊)

■脚本・演出／印南真人(東京芸術座)

■東京芸術座

東京芸術座の歴史は村山知義の戦前からの演劇活動に代表される流れが東京芸術座の歩みの歴史でもあります。心座、左翼劇場、新協劇団、そして戦後の第二次新協劇団を経て、1959年2月4日、薄田研二の劇団中央芸術劇場と合同して東京芸術座の結成に至ります。以来、劇団は一貫してその良き伝統を受け継ぎ、正統なりアリズム演劇の創造と普及の運動を続けてきました。年2～3回の東京での本公演・アトリエ公演。市民劇場例会、子ども劇場おやこ劇場例会、実行委員会主催による地方一般公演、年間200回にのぼる学校公演を行っています。

■「未来への課題」演出／印南真人

「生きている!」これが『夏の庭』での第一声のセリフです。これは観客の皆さんへのメッセージであり、私たち舞台をつくるスタッフ・キャストへの呼びかけでもあります。現在の社会が抱えている、家族のあり方。お年寄りの孤立、孤独死等を、時には厳しくあるいは切なく、心に響く言葉を織り込みながら、この原作は「現実」に真正面から立ち向かっています。2011年3月11日は、私たち演劇を創造するものに大きな衝撃を突きつけられました。いま演劇に何が出来るか?という自問自答でした。3.11の意味するものをどう表現し伝えて行くか、私たちの課題だと思いました。そして今回の「夏の庭」を取り組むことを決意しました。劇中「生きているのは息をしているってことだけじゃない」というセリフがあります。失われ逝った人々へ想いを寄せながら、いまある生を育む大切さを感じ取って頂ければ幸いです。原作の持つリズムミカルな言葉のテンポを大切にしたい舞台をお届けしたいと思います。そして多くの子どもたちに心を込めて…



三股町立文化会館

■会場／三股町立文化会館
 〒889-1901 宮崎県北諸県郡三股町樺山3404-2
 ■主催／三股町・三股町教育委員会
 ■お問い合わせ・チケット取扱／三股町立文化会館
Tel.0986-51-3462

※電話予約可 休館日(月曜日)を除く午前9時～午後5時
 ※WEB予約可 <http://www.town.mimata.lg.jp/bunka/>

